

夏期ニ於ケル傳染病等ニ關シテハ詳カナラザレ共宿
 營ニ際シ白蛉子(パイリンズ)ト稱スル毒虫アリ皮膚搔
 痒ノ感甚ダシク水泡ヲ生シ體質ニ依リテハ化膿シ睡眠
 ヲ妨ゲ戦闘力ニ影響スルヲ以テ之カ對策ヲ考究スル
 要アリト思料ス(防蚊膏蚊取線香等ハ効カナシ)

(三十二師)

第二編 編成裝備其他參考事項

第一章 編成

第一節 魯東地區

一 魯東東北部地區

昭和十六年七月

ノ大行李ハ馱馬編成ナルヲ要ス

招遠東南部、黃縣蓬萊縣南部及棲霞縣西北
部及棲家泊附近迄ニ牟平縣棘子園附近ハ一般
ニ山地ニシテ道路亦破壊セラレアルヲ以テ車輛部隊ノ
通過不能ナリ總テ徒步馱載ニ依ラザルベカラズ
ニ山砲ハ馱載ナルヲ要ス

3. 工兵ノ一部ヲ携行スルヲ要ス

敵ノ兵器工廠若クハ重要施設ヲ破壊セントスル場合
爆破ニ依ルヲ可トス

4. 中隊以上ノ部隊ハ常ニ數名ノ道案内者ヲ獲得シ

置クヲ要ス

地形複雑ニシテ案外精密度大ナル地圖ニ於テモ時ニ
現地ト相違シアルコトアリ

5. 優秀ナル便衣ノ支那側武装團體ノ一部ヲ携行ス
ルヲ要ス

情報蒐集其他部落ノ檢索掃蕩ニ大ナル効果アリ

(獨混五)

二乘馬隊ニ就テ

昭和十五年七月

討匪戰ニハ乘馬隊ヲ編成シ地形敵情ニ應ジ迅速
ナル機動ヲ以テ敵ノ退路遮断ニ努ムルヲ可トスベシ

而シテ其ノ乘馬隊ハ現在ノ中隊ノ編成ニ少クトモ二十騎以上タルヲ要スベシ

例(昌邑縣遠家集附近ノ戦闘昭和四九)

遠家集ノ敵ハ我ガ猛攻ニ遭フヤ雪崩ヲウツテ西北方

ニ逃走ヲ始ム西方ニ迂回敗走ノ敵ニ退路遮断奇襲

ヲ企圖シ松樹遠家附近ニ進出シアリタル乘馬分隊

ハ機ヲ失セズ之ヲ攻撃スルニ決シ機動カヲ利用シ一擧

ニ松樹遠家西方墓地附近ニ進出シ敗走ノ敵ヲ殲

滅セリ

(古 同)

三 作業班ノ編成ニ就テ

昭和十五年七月

匪賊討伐ニ必ス道路ノ破壊阻絶ニ遭遇スルコトヲ

豫期セザルベカラズ

ニガシメ豫メ作業班ヲ編成シ之ニ遭遇セバ直ニ修復シ

得ル如ク準備シアルヲ要ス

(右 同)

四 乘馬傳令乘馬密偵ニ就テ 昭和十五年七月

本部及各隊ニ所要ノ乘馬兵ヲ傳令トシ連絡ニ任ゼシ

ル外密偵通譯ヲ乘馬トシ適時逃走匪潛入匪ノ

捕獲ニ努ムルハ最モ必要及効果ヲ收ムルモノトス

亦配宿準備ノ爲先行ニ使用スル等多大ノ利便アリ

(右 同)

山糧秣ノ携行ニ就テ

昭和十五年七月

行李ノ編成ヲ行ハズ現地人馬ヲ利用シテ多量ノ糧秣

ヲ携行スル方法トシテ左ノ如キモノアリ

一 支那馬車ニ車載スル方法

二 支那馬ニ馱載スル方法

三 支那一輪車ニ車載スル方法

夫々一長一短アルモ路面廣キ平地ノ行動ニハ(一)ノ方法可ナリ

路幅狭ク蠢ル處破壊セラレ且山地方面ノ行動ニハ(二)

及(三)ノ方法ヲ選バ外ナキモ徒ラニ行軍長徑ヲ延長セシ

ル缺トアリ

例 平度掖縣附近討伐行動間難行路多キ爲
 比較的行動シ易キ(2)方法ヲ採リタルニ所見大要
 左ノ如シ

携帶口糧甲乙各一日分、外尋常糧秣(所要
 ノ小輕食粒ニ加給食ヲ含ム)七日分ヲ携行スル
 爲尋常糧秣二日分各人ニ携行セシム
 尋常糧秣五日分支那馬ニ馱載セシム
 人四二名馬一〇頭各五日分ニ對シ馬七五頭ヲ要ス

備考

一馬背三以(三捆)ヲ繩又ハ綱ニテ連結シ馱載ス

2. 一頭ニ付馬丁一名宛ヲ附ス
 3. 一小隊(三〇名)ヲ以テ糧秣監視隊トシ監視掩護セシメ之ガ指道ヲ統制ニ任ゼシム
- 参考事項

1. 雇傭馬ハ馬體大ニシテ長途難路行動ニ耐ヘ得ル如ク強健ナルヲ要ス

2. 臨時雇傭馬ハ敵ヨリ急射撃ヲ受ケシ場合其ノ他夜間駐留時逃走スル虞アルヲ以テ嚴ニ監視スルヲ要ス

3. 車輛ヲ用フル時ハ逃走スル虞ナキ利アリ

(右 同)

六他部隊ヨリ配屬部隊ニ就テ 昭和十五年七月

配屬セシメラルタル他部隊ニ對シテハ現地部隊ノ一部

(二分隊ニテモ可)ヲ配屬セシムルヨ可トス

之道案内及密偵ノ使用並ニ情報ノ蒐集ニ多大ノ

便宜ヲ與フルモノナレバナリ (右 同)

第二節 魯南地區

一淄川東南方地區

昭和十六年五月

討伐ノ為集結地泉頭ヨリ黒山(淄川東南方十五

軒)ニ到ル道路ハ全ク地形偵察ヲ為シタルコトナク五万

分、一地圖上、兵線路ヲ辿リテ前進セシム爲途由峻峻ナル断崖ヲ通過スル、止ナキニ至リ馬倒レ或ハ傷キ行進著シク遲滞シタルモ萬難ヲ排シテ漸ク其任務ヲ遂行セリ

將來夫知、地形ニ於テハ必ず地理ニ精通セル道安木刈ヲ帶同スルハ勿論豫備馬ハ必ず之ヲ準備シ同行スルヲ可トス

(獨混六)

二沂水西南方地區

昭和十五年九月一十月

西南方地區ハ山嶽地帯ニシテ岩石層ナルヲ以テ道路ハ頗ル不良ニシテ行動甚ダシク遲滞ス

車輛ハ絶体ニ通過不能ニシテ、勉クテ馱馬編成トスル
ヲ可トス

進路偵察追撃宿營地へ、先行等、爲勉メテ
シツクノ乘馬隊ヲ編成スルヲ可トス

三 情報蒐集ニ特別工作隊ヲ使用スルヲ最モ有利トス

(一 言 同)

三 魯南地區

昭和十五年九月

本地區(魯南作戰)ニ於テ出先及統制共ニ三號機ヲ
用ヒタルニ常ニ出先ノ方ニ於テハ感度良好ナルモ統制ニ
於テハ感度少ク混信多ク妨害アリテ通信實施ニ

支障ヲ生セシフト少カラズ

本作戦地ノ如キ山嶽地ニ在リテハ放射電波及妨害電波僅少ナルニ起因スルモノニシテ本作戦ノ重要ナル經驗ナリ故ニ爾後作戦地ノ山嶽地帯ナル特性ト今次ノ經驗ニ鑑ミ出先ハ五號F型ニテ充分ニシテ且行動ニ便ナル利アリ態々重量大ニシテ且人員ヲ多ク要スル三號機ヲ携行スルノ必要ナシ但シ統制通信所ハ三號機使用ヲ要アリ

今テ次ノ如キ作戦ニテ三所一系ヲ以テ交信スルトキハ各部隊共電報ヲ有スル時刻ハ一定ナルヲ以テ通信實施上

一〇九

支障ヲ來セシコト少カラズ如斯討伐作戰ニ於テハ可成
 二所一系ニテ交信セシムルヲ可トス（右 同）
 此工兵ノ編成裝備ニ就テ（魯南作戰）昭和十四年六月
 會次討伐ニ於ケルガ如ク敵ノ為破壊セラレタル道路
 或ハ良路ニク之シキ山岳地帯ヲ重車輛部隊ヲ以テスル
 相當ノ行軍ヲ要求セララル作戦行動ニアリテハ配屬
 エル工兵ノ活動ニ俟タザルベカラズ然ルニ現在ノ工兵ノ如
 ク徒歩編成ニシテ土工器具ヲ携行スル裝備ニテ長途ノ
 行軍スル場合ハ機動ヲ許サズ故ニ車輛部隊ノ行動
 ニ先立テ之ヲ補修スルコト全ク困難ナリ

今次討伐ニ於テハ殆ド工兵ノ活動ニ依ルコトナリ砲兵ノ
 道路偵察ノ候ヲ増員シ之ニ土工器具ヲ携行セシメ
 テ大ナル遲滞ナク行軍シ得タルモ將來如斯場合ニ配
 屬セシメラルル工兵馬匹等ニ依リ若干ノ機動力ヲ附與
 シ器材携行ノ負擔ヲ輕減シテ其ノ機能ヲ完全ニ
 發揮セシムルヲ要ス

又任務ニ支障ナキ場合ニ於テハ前記ノ如ク獨乘者ヲニテ
 乘馬土工班ヲ編成シ之ヲ道路偵察(共兵ト同行セシムル
 可)ト同行セシメテ簡易ナル工事ニ任セシムルヲ可トス

(第十四師)

五作業班ノ編成ニ就テ(魯西、魯南道境附近)

昭和十四年五月

本次作戦ハ山間避地加フルニ未踏ノ地ヲ隅ナク拔步セル
關係上最初ヨリ觀測車及段列車輛ヲ首キ觀測通
信機材及彈藥ヲ輜重車ニ積載シ最後迄續行セリ
又大隊トシテ統一セル作業班ヲ編成シ道路ノ加修ニ
任ゼシメタリ

是等編成裝備ニ依リ討伐間岩石道及峻峻ナル
急傾斜等各所ニ遭遇セシモ豫定ノ如ク行動シ
得タリ

(右 同)

六大隊ニ約一小隊、乘馬隊ヲ必要トス 昭和十四年五月

極度ノ分散配置ヲ採リアル今日聯隊内、乘馬隊設置

ト同様主旨、下ニ之レカ必要ヲ痛感ス

使用方法ノ一例

一 討伐時、迂回及追撃

二 警備地區間、連絡通信線確保

三 搜索(威力)

(古 同)

第三節 魯西地區

一 鄒縣東方地區

昭和十六年七月

編成裝備ニ於テハ現制ニ於テ可ナルモ山地ノ戰鬥ニ

炭ニハ火砲特ニ擲彈筒ノ効果多シ

大隊砲ト擲彈筒、中間位ノ火砲、實現ハ當地ノ

七ヶ山岳戰ニ必要ナラン

(三十二師)

防疫給水班、編成ニ就テ

昭和十五年七月

團防疫給水班ノ行フ防疫給水ハ淨水及搬水班ヲ

三隊トシ之ニ毒物檢知及水質檢査並ニ修理補給

班、若干ヲ加味シタル如キ編成ヲ以テ實施セリ

理想トシテ一ヶ大隊ニ一ヶ分隊ヲ配屬セシムルヲ可トス

一ヶ分隊、編成ハ分隊長下士官若クハ上等兵トシ之ニ

一、二等兵ニテ分屬ス徒ラニ編成ノ大ナルハ機動性ニ乏シキ
 缺點アリ分隊長以下數名ナル編成ハ自動車及車
 輛編成ニスルモ共ニ行動ニ便ニシテ特ニ自動車編成ニ
 於テ然リトス

小編成ニテハ濫カ操作ニ不便、如ク見受ケラルルモ當
 地方ニ於テハ隨所ニ於テ若カラ痛役シ得ルヲ以テ何等
 支障ナシ

若シ之ヲ大隊自体ニ於テ實施セントスレバ

長 衛生下士官 一（兼務ニテ十分）

兵 二（衛生兵（其他））

馬取扱兵

二(苦力ニテモ可)

支那馬

二

石ノ如ク車輛編成ヲ可トス

(石 同)

第二章 裝備

第一節 魯東地區

一 冀縣招遠棲霞縣地區 昭和十六年七月

ノ特種發煙筒ヲ携行スルヲ有利トス

部落内ニ據レル敵匪等ニハ微量ナル瓦斯ニテモ大ナ

ル効果アリ

ニ要スレバ小型無線機ヲ携行スルヲ要ス

地形複雑シアルヲ以テ縦隊間ノ連絡ハ無線機ニ依ルヲ
可トス

3. 要スレバ地下足袋ヲ携行スルヲ可トスルコトアリ

山嶽ヲ陞躋シ敵ノ意表ニ出ヅル場合地下足袋ニ依
ラザル可ラザル場合アリ (獨混 五)

ニ昌邑縣地區

昭和十五年七月

人麥繁茂期ノ討伐ニ就テ

麥繁茂セル時期ノ討伐ニ於テハ時トシテ輕機、重機ノ
射撃ヲナシ得ザルコトアリ從ツテ射撃ノ爲地形改修ノ
要アル場合多ケレバ一ヶ分隊ニ二三挺ノ用是ヲ携行

スルヲ有利トス

之麥繁茂期ニ於ケル遭遇戦ニ就テ

高粱畑等ニ於テ敵ト遭遇セル場合無音心味ニ對戦
スルヨリ地形及高粱等ヲ利用シ努メテ接近シ一舉ニ
突入スレバ効果大ナリ

小銃ノ射撃ハ努メテ必要以外嚴禁スルヲ要ス
特ニ繁茂期ニ於テハ山ヨリモ寧ろ擲彈筒ヲ携行
スルヲ可トス
(右 同)

第二節 魯南地區

一 青州道地區

昭和十六年一月

ノ北支ノ地質的現狀ヨリ見ルニ砂塵ノ為ニ十一年式輕機
關銃ハ裝彈不良等ノ故障多キヲ以テ「チエッコ」式輕
機關銃ヲ使用スルヲ可トス

三、繁茂期ニ至リテハ敵ヲ確認スル事困難ナルト共ニ又
接敵容易ナル為ニ重火器ヨリ寧ロ擲彈筒ヲ携行
スルヲ有利トス又機關銃輕機關銃ハ概テ射撃
不可能ナル状態ナルニ付繁茂期ハ重擲彈筒ノ使
用ヲ最モ有利トス

3、砲ニ在リテハ樹木繁茂セル故瞬發信管ヲ以テシテハ
効果少シ短延期針管ヲ使用セザルベカラズ

高度分散配置ノ態勢下不慮ノ事件ニ應ジ得ル

如ク相當程度ノ自動貨車若クハ自轉車ヲ必要

トス各中隊少クモ三ロ台ノ自轉車ヲ準備セバ有利ナリ

各駐屯隊一個ノ双眼鏡ヲ必要ヲ痛感ス

通常ハ望樓上ノ監視用トシ出勤間ハ偵察用トシテ

使用ス

(獨混六)

兵器手入材料ノ常ニ保有シアルヲ要ス(長山縣附近)

昭和十三年四月

某大隊が某地ニ於テ部落攻撃ニ方リ恰モ當日午後

ヨリ降雨トナリ畑地ハ一面泥濘ト化シ發射毎ニ脚没入シ

爲ニ土砂機關部ニ附着シ大隊内重輕火器全ク發射不能トナリ手入後漸ク一部ノ使用ヲ許スニ至レリ

(一五 師)

三津浦線東側地區

昭和十三年十二月

今次討伐ニ於テハ小部隊ヲ以テ分散配置セラレ從ツテ重火器ノ分屬通信機關ノ配屬等ニ於テ行キ
 難ラザルモノアリ

又相當峻峻ナル山地ニ行動セルヲ以テ重火器數通信連絡器材及馱馬裝備ノ増加ヲ必要トス

例ハ

山地帯ニ於テハ輜重車輛ノ通行困難ナリ故ニ平射
砲歩兵砲等ノ彈藥運搬ノ爲ニハ一輪車ヲ用フルヲ
可トス

一輪車ニハMG彈藥箱四個歩兵砲彈藥十發ヲ
運搬シ得シリ台見庄毛溝附近ノ戦闘ニ於テ体
験セリ

2. 重火器ノ行動至難ナル山地戰及重火器不足ナル
現況ニ於テ圍壁ニ依ル敵ノ攻撃竝ニ分離行動
スル歩兵小中隊ノ獨立戰鬥力附與ノ爲重擲
彈筒裝備ノ増加ヲ最必要トス

3. 重機及歩兵砲ノ増加ヲ望ム又重火器ハ山地ノ戰鬪
行動上馱載ニ改装スルヲ急務トス
 - 大隊ニ重機四小隊歩兵砲一小隊ヲ適當トセン
 4. 輕機ハ中隊ニ九銃ヲ必要トス
 5. 密接ナル連絡ヲ要スル討伐隊トノ連絡ハニヶ所對向
トナル如ク無線機ノ増加ヲ必要トス
 6. 一ヶ大隊約百着ノ支那服(便衣)ヲ準備スルヲ必要
トス。
- 警察隊保安隊等ヲ討伐ニ協力参加セシメタル
場合敵ハ日本軍ニ對シテノ逆襲シ來ルヲ通例トス

故ニ尖兵等ハ便衣ヲ着用シ保安隊等ト伍シ五〇
 一〇〇米先方ヲ前進セシメ或ハ攻撃ニ際シ包圍
 部隊トシテ使用スル等ノ方法ヲ採ラバ効果的ナラン
 討伐部隊ノ編成小ナルニ及ビ益々必要ナリ

(百十四師)

第三節 魯北地區

一 樂陵縣東北部地區

昭和十四年七月

縣東北部地區ハ樹木密生地帯ニシテ其ノ主ナルヲ東
 樹トシ外楊柳杏桃樹等アリテ通視殆ド不可能ナ
 リ故ニ近接戰鬥ヲ惹起シ易キヲ以テ側方ニ對スル

警告ヲ至嚴ナラシムルノ處置ヲ講ズルヲ要ス
 大ナル匪團ノ跳梁スルコト稀ナルヲ以テ他地區ニ比シ割
 合ニ部落ハ豊ナル状態ナリ

右ノ如キ地區ヲ行動スル際ハ左ノ如ク對策スルヲ要ス

1. 部隊ハ整裝トシ馬車等ハ極力使用セザルコト止ムヲ
 得ズ用フル際ニ豫メ壕ニ對スル處置ヲ講ズルコト

2. 煙(瓦斯ヲ含ム)ハ必ず携行コト(被甲携行)

3. 灣曲大ニミテ操作容易ナル大砲(大隊砲等適當
 ナラン)ヲ携行コト
 (獨混七)

二高河附近

昭和十四年七月

三三

三月下旬ヨリ五月上旬ニ至ル間ハ風塵ノ爲ニ一年式輕
 機關銃ハ一般ニ裝彈不良等ノ故障多キヲ以テ「チエッコ
 式輕機關銃重擲彈筒ヲ携行スルヲ可トス

ニ地形平坦開闊地ナル故彼我共ニ中距離ニ於テ射撃
 開始スル事多シ之ガ爲ニ敵情看視射彈ノ觀測等ノ
 ツル分隊長以上双眼鏡ヲ携行スルヲ有利トス

ニ戰鬪間交通壕ヲ利用シテ接敵スル際敵ニ感知セ
 ズル事ナク近接シ且敵情搜索スルニ使用スベキ潛望
 鏡ノ必要ヲ痛感ス

繁茂期戰鬪ニハ重機關銃ノ麥粟畑等ニ陣地

進入スル事アルヲ以テ相當高サヲ有スル潛望式眼鏡
ノ照準具アレバ頗ル有利ナリ (右 同)

第四節 魯西地區

一 朝城縣附近

昭和十五年七月

酷暑時ニ於ケル作戰ノ爲部隊ニ必ズ簡單ナル盥
水器ヲ配當セバ至便ナリ

特ニ本地域附近ハ水中ニ塩分ノ含有量多ク消化
器系統ノ疾患ヲ生ジ易ク爲ニ作戰能力ニ支障ヲ
來スフトアリ

(三十二師)

二 防疫給水班ノ裝備ニ就テ

昭和十五年七月

師團防疫給水班ニ於テ實施セル裝備左ノ如シ(自
動車編成一ヶ分隊)

自動貨車

一輛

衛生瀘水器乙

一具

ワキング唧筒予備

二具

水深具

一具

搬水具

ツック製水槽

(ニツク立入) 三

背負式搬水囊

(ニツク立入) 五

木製水桶

(ニツク立入)

現地徴用(各戸大抵ニテ宛リ)

バケツ型水槽 (二〇立入) 二

貯水具

ツツク製水槽 (一〇立入) 一

木製水槽 (三〇立入) 現地徴用

水 甕 (五〇一〇立入) 現地徴用

若シ之ヲ大隊自体ニテ實施セントスレバ左ノ如キ裝備ヲ可トス

衛生蘆水器 (附屬品箱及保温) 一具
(槽ヲ取除クヲ可トス)

輜重車 (馬車ニテモ可) 二輛

ドラム罐 (四斗樽ニテモ可) 二個

檢知紙(昇汞及青酸)

各五十枚

右品目ナキ時ハドラム罐、酒樽、湯、タンポ、氷嚢ヲ適用スルヲ可トス

(右 同)

第三章 地圖

第一節 魯東地區

一 地圖地誌圖ハ高度分散配置ニアル關係上分隊以上及大隊本部使用ノ分等少クモ五十部位ノ配布ヲ

要ス

(昭二六五獨五)

第二節 魯南地區

一 十万分ノ地圖ニ依テ廣饒附近東西ニ通ズル距離ハ

實距離ニ比シ圖上距離ハ少ナリ

圖上三料ハ實距離四料トシテ計算スルヲ可トス

(昭二六一獨混六)

二魯南作戦後半期ニ於テハ鹵獲セシ支那製五万分一
地圖ハ精度甚好ニシテ行動ニ便利ナリキ然レ共活字
ノ不明瞭ト紙質不良ナル為複製ニ依リ此ノ缺莫
ヲ補ハハ爾後ノ行動ニ有利ナラン

(昭一五九獨混六)

三沂州附近

昭和十三年三月

本戦闘ニ於テハ精度不良ナル十万分一地圖ニ依リ終始

戦闘セルモ地矣地名等ノ誤リアリ爲ニ歩砲協同上又
 各部隊ノ連絡上支障ヲ生ゼリ故ニ斯ル場合ニ於テハ空
 中寫眞ニ依ル地圖然ニ敵陣地附近ノ寫眞ヲ準備
 シ連ニ各部隊間ノ現地ト地圖上ノ地名トヲ一致セシムルヲ
 要ス特ニ迅速ナル作戦ヲ必要トスル對支作戦ニ於テ
 然リ
 (五 師)

第四章 参考事項

第一節 魯東地區

一、鋸ノ携行ニ就テ

昭和十五年七月

鋸携行ノ必要ヲ痛切ニ感ズルコトアリ

例 北張氏（維縣東北方約十軒）東北方無名河橋梁

通過ニ際シコンクリート橋梁上ニ枝ヲ附着セル儘ノ

大ナル樹木ヲ横夕ヘ鹿砦ヲ設置シ而モ其ノ樹木ノ

幹部ハ多量ノ土ヲ以テ西復ヒ且踏付ケアリシガ爲之

ヲ除去スルニ相當ノ困難ト時間トヲ要セリ

（獨混五）

ニ喪裝部隊ニ就テ

昭和十五年七月

上衣ヲ脱シ官給襦袢（白ハ不可）及日笠ヲ着用セバ敵

視察判断ヲ困難ナラシメテ奇襲ニ効果アリ

例（維縣塚子後ノ戦鬪）

豪雨ナリシト加フルニ我カ変装ニ眩惑セラレ城門
扉片方ヲ開ク迄日本軍タルヲ氣付カザリキ

(右 同)

三塩酸ニ依ル障碍ニ就テ

昭和十五年七月

敵ハ塩酸ニ依リ一時我カ行動ヲ阻碍スルコトアリ

例蓬萊縣黃泥溝附近ニ戰鬪ニ於テ我カ追撃ヲ

受ケシ匪ハ退却ニ際シ四周屏然タル比高四〇〇米

ノ山岳ヲ繞ラス谷地部落入口ニ塩酸壘(容量

三〇立)數個ヲ破壊シ發散スル氣體ハ低流シテ

約二時間我カ行動ヲ阻碍セリ

四情報ノ蒐集ニ就テ

昭和十五年七月

(右)

(同)

情報ノ蒐集スル場合其ノ敵匪タリシ者ニ味徒黨ヲ利
用スルヲ得バ最モ有利ナルモ之カ爲ニ先ヅ人物ヲ十分
精査シ却ツテ之ニ利用セラルルガ如キ事ナキ様處置ヲ
講ズルヲ要ス

斯ノ如キ場合ニ密偵ヨリ其ノ情報ヲ聴取スルキ場所ハ部
隊將兵ト隔離セル別室ニ於テ行フコト最モ肝要ナリ

(右)

(同)

第二節 魯南地區

一夏期討伐ニ於ケル被服ノ損傷 昭和十六年五月

夏期討伐ニ於ケル被服ノ損傷ハ豫想外大ニシテ討伐
 經理中糧食給養ト共ニ被服經理ニ留意スルヲ必要
 トスニガ行動日數ニ應ズル狀況次表ノ如シ

雨期ニ於ケル河川ノ渡渉或ハ發汗ニヨル濕潤其他夜
 間行動ノタメ手入不十分等ニ因リ夏期一ヶ月ニ亘ル行
 動ニ最小限編上靴八〇%夏衣袴四〇%襦袢袴下
 二五%ノ交換品準備ヲ必要トス

(獨混五)

次表

| 長谷川討伐隊被服衰損修理交換状況調 | | | | | | | | | | | 昭和十六年五月下旬〜七月下旬 長谷川討伐隊 | |
|-------------------|----|------|----|-------|----|--------|----|-------|------|-----|--------------------------|--|
| 品目 | 區分 | 交換月日 | 員數 | 交換月日 | 員數 | 交換月日 | 員數 | 修理月日 | 修理員數 | 計 | 衰損率 | |
| 夏衣 | 夏袴 | 六月八日 | 五 | 六月十五日 | 二〇 | 六月二十二日 | 七五 | 六月十三日 | 一八 | 九八 | 五二% | |
| 夏襦袢 | 夏袴 | 六月八日 | 一六 | 六月十五日 | 二〇 | 六月二十二日 | 三二 | 六月十三日 | 六一 | 一〇 | 五九% | |
| 夏袴 | 下 | 六月八日 | 二 | 六月十五日 | 一九 | 六月二十二日 | 四六 | 六月十三日 | 七六 | 四〇 | 二八% | |
| 卷脚絆 | 下 | 六月八日 | 一 | 六月十五日 | 三 | 六月二十二日 | 二九 | 六月十三日 | 五〇 | 二八 | 二八% | |
| 雜 | 囊 | 六月八日 | 一 | 六月十五日 | 一〇 | 六月二十二日 | 一七 | 六月十三日 | 二八 | 一四 | 一四% | |
| 代用背囊 | | 六月八日 | | 六月十五日 | | 六月二十二日 | | 六月十三日 | | | | |
| 背負袋 | | 六月八日 | | 六月十五日 | | 六月二十二日 | | 六月十三日 | | | | |
| 略 | 帽 | 六月八日 | | 六月十五日 | | 六月二十二日 | | 六月十三日 | | | | |
| 編上靴 | | 六月八日 | 三三 | 六月十五日 | 一六 | 六月二十二日 | 二八 | 六月十三日 | 九 | 三七 | 一九% | |
| 水筒紐 | | 六月八日 | 一 | 六月十五日 | 八 | 六月二十二日 | 九 | 六月十三日 | 二 | 三 | 一% | |
| 洗濯石鹼 | | 六月八日 | 七四 | 六月十五日 | 二五 | 六月二十二日 | 五〇 | 六月十三日 | 一八 | 一四九 | 七六% | |
| 靴 | 下 | 六月八日 | 四〇 | 六月十五日 | 二〇 | 六月二十二日 | 九 | 六月十三日 | 二六 | 六〇 | 三七% | |
| 靴 | 紐 | 六月八日 | 五〇 | 六月十五日 | 二〇 | 六月二十二日 | 九 | 六月十三日 | 二六 | 六〇 | 三七% | |

備考

一長谷川討伐隊行動兵力一九五名 行動期間 自五月二十九日 至七月七日 四〇日

二行動當初兵着裝程度個人支給被服上装ノモ、完全修理シアリ

三編上靴總人員以上ノ數ニ達シアル古品修理ノモ、衰損再度ニ及ヒ二回ニ交換ヲナセルモノトス

四夏衣袴 襦袢袴下ニ於テ比較的衣襦袢ノ衰損多キハ降雨下ノ行軍乾燥ノ暇ナキ發汗等ニ因リ常ニ多分ノ濕氣ヲ含ミアル上ヲ多數ノ器具ニ依リ甚ダシク摩擦セラレシニ依ルモノト思考セララル

五地方修理ハ補修材料ヲ官給シ、シ、シニ依リ作業延時間三時間修理費一萬十五錢ヲ以テ實施ス

六個人修理ハ常ニ補修材料ヲ支給シ行動間努メテ實施セシメタリ

七行動地區ハ膠縣諸城及日照縣境山嶽丘陵地帯ヲ主トシ各河川ハ六月上旬ノ降雨ニ依リ、一、五米ノ流水アリ

二夜間部落通過ハ止ラ得ガル場合ヲ除ク外避クルヲ可トス

昭和十四年六月

敵匪ハ部落ニ圍繞シタル土壁ヲ利用シ必ラズ抗戦準備シ
アルモノニシテ夜間不用意ニ之ヲ通過スハ攻撃シ手榴彈ニ
依リ損害ヲ蒙リタル實例アリ

又我カ企圖秘匿上ヨリモ必要以外ノ部落ハ之ヲ迂回シ以
テ我カ目的トスル目標ニ直進スルノ着意ヲ必要トス

(百十四師)

二運搬カト耕作地ノ上質ト關係 昭和十六年五月

耕作地が輕砂土ニシテ大ナル畜カヲ必要トセザル地區ノ

驢馬ハ比較的体驅矮少体力薄弱ニシテ且飼育數量少テリ

膠縣諸城南方地區ニ飼育スル驢馬ノ徵發ハ他地區ニ比シ困難ニシテ尚一頭ノ運搬積載量ハ五〇斤ヲ超過シ得ズ堅砂土質ハ山嶽丘陵地帯ニ多キヲ以テ特ニ然リトス

該地區ノ運搬力ノ徵發ハ驢馬ヲ排シ苦力ニ依ルヲ可トス (獨混 五三)

四蹄釘ノ携行ニ就テ(魯南地區) 昭和十四年六月
ハ山岳跋涉ニ於テハ馬匹ノ蹄壁缺損シ落鐵スルヲ多ク

特ニ長期ニ至ル時ハ平地戦ニ比シ相當多量蹄鎗ヲ携行
スルヲ要ス

夏期作戦ニ於テハ成ルベク多ク梅干生味噌ヲ携行スルヲ
可トス

土民ヲシテ同行セシムル際ハ時々地形ト地圖トヲ照合スルヲ
要ス 土民ノ言ノミヲ信ジ前進スルハ嚴ニ戒ムベキモノトス
行軍辛勞ノ度多キヲ加フルトキ特ニ然リトス

土民ハ一般ニ故意ニ部落通過ヲ忌避スルノ傾向ヲ有ス
時ニ大キク迂回スルコト等アリテ豫定路ヲ先道ヤセザルコト
多クレバナリ 部落ハ掃蕩上必ず通過スルヲ要ス

第三節 魯西地區

(右 同)

兵器及ボシタル影響

利津縣史家口附近

昭和十四年十一月

黃砂風塵甚クキ為射撃ノ際毀損シ易ク銃口ニ
 ワセリン等固形油(軟キモノ)ヲ塗布スルヲ可トス
 又重輕機射撃ニ當リテハ撒水シ之カ防止ニ勉ムルヲ
 要ス
 (獨混六)

之陽信縣地區

昭和十四年十一月

春季ハ此地乾燥シ黃塵飛揚スルヲ以テ兵器(自動

火器) 故障生ジ易シ

(獨混七)

ニ戦闘ニ及ボシタル影響

ノ武定北部地區

昭和十五年一月

拂曉時及其後、寒冷時ニ於ケル自動火器ハ自動貨車ニ依リ行動シタル場合塗油凝固シ彈送り不良ノ故障續發ス不凍油ヲ用フルカ或ハ油ヲ拭ヒ去リ射撃後塗油手入ヲナス等ノ處置ニヨリ故障ヲ豫防スルヲ要ス

一月二十八日陽信縣張家集附近ノ戦闘ニ於テ(九時ヨリ十時三分ノ間)零下十二度ノ時自動車ニ依リ行動シタル結果凝固シ故障ヲ生ジタリ(右 同)

三 輸送ニ就テ

昭和十六年七月

武定東北部地區ハ比較的的道路網整備シ且皇軍駐屯地附近ハ車馬ノ徵發容易ニシテ作業行動時ノ材料輸送ニハ不足ヲ感ゼズ彈藥糧秣ハ車載ニ依ルヲ可トス
兩禦ニ於テハ馱載ヲ可トスルコトアルモ馱鞍馱載具共ニ乏シ
(右 同)

四 河川ノ渡渉ニ就テ(禹城西方地區) 昭和十三年九月

河底泥濘ナル河川ノ渡渉ニ於テハ河底ヲ堅硬ナラシムル手段トシテ煉瓦石塊等ヲ敷ク方法ヲ講ズルヲ要ス
特ニ煉瓦ヲ集ムルハ附近家屋ノ状態ニ依リ容易ナリ

(百十四師)

五砲兵射撃ニ就テ(平原西南方地區)昭和十三年十一月
 當地方部落ノ砲撃ニハ短延期信管付榴彈若クハ
 榴彈甲ヲ最モ適當トス

尚地方主要部落ニ存スル望樓破壊スルニ野砲榴
 彈ヲ以テニテ概成破壊ニ約二百發ヲ要セリ

(右 同)

第四節 魯西地區

一 情報蒐集ニ就テ(朝城、汜縣地區)昭和十六年一月
 ノ豫備無線機ヲ以テスル比隣討伐隊ノ電報傍受セバ
 其行動企圖當面ノ匪情ノ承知迅速ニシテ極メテ有

利ナリ

上民ヨリ情報ヲ蒐集スルニ當リ情報掛將校ハ陰歷月
 日ヲ承知シアルヲ要ス(一般ニ老百姓ハ陰歷ヲ使用シ
 アリ)

追走セル敵ノ一部ハ良民ヲ装ヒ部落ニ逃避シアルコト多
 シ戦闘後、部落掃蕩ニ當リ之ガ發見捕縛ノ著意
 ヲ肝要トス

袁庄ノ掃蕩ニ於テ寢台下ヨリ、蘇村ノ戦闘ニ於テ
 負傷セル八路兵二名ヲ發見捕縛セリ

(三十三師)

二 土工器具ノ携行ニ就テ(朝城縣) 昭和十五年七月

本地區内ノ壕掘開セラレアルヲ以テ車輛ノ行動ニ關シテハ
大ナル制限ヲ受ケタリ

一般ニ自動貨車ニ於テハ最大時速八籽内外ナリ壕ヲ通
過スル爲板ヲ準備セバ便ナリト思料ス

尚自動車部隊ハ必ず土工器具ヲ携行スルヲ要ス

(右 同)

三 砲兵ノ岩石道登降ニ就テ(平陰地區) 昭和十三年七月

岩石道ニ於ケル馬匹ノ滑走スルハ言ヲ俟タザル所ナリ

今次行動ニ於テ屢々之ニ遭遇シ極メテ困難ヲ來セシモ

路面ニ若干ノ土砂ヲ散布スルトキハ比較的容易ニ通過シ
得ベシ又ハ狐、筵等ヲ敷キメル上ニ土砂ヲ稍々多量ニ散
布スル時ハ相當急坂路ニ於テモ通過シ得

特ニ坂路、中途ニ於テ停止セシムルハ危険ナルベシ小坂路ニ
於テハ若干ノ距離ヲ有シテ一氣ニ通過スルヲ可トス

(百十四師)

四日(熱)射病ニ罹リタル馬匹ノ取扱ニ就テ 昭和十三年七月
ノ徴候ニ就テ

日(熱)射病ニ罹リタル馬匹ハ一見腰疼ノ如クニシテ腰部
ヲ低下シ後肢ヲ踏張り急速ニ駈歩スルヲ得ズ之相(熱)